



世界ポリオデー イベント 計画ガイド

このガイドは、ポリオ根絶活動の一環として「世界ポリオデー」のイベントを計画する際の指針としていただくことを目的としています。イベントのアイデアや計画にあたってのチェックリスト、イベントを成功させるために必要なリソースなどを掲載しています。



★ポリオデーイベントをご紹介します。

<https://www.endpolio.org/ja/shi-jie-poride>

1 はじめに

ポリオ根絶運動を知ろう、知らせよう

本書は、国際ロータリーが目指すポリオ根絶運動を推進するためのキャンペーン活動が効率的かつ持続可能な状態で引き継がれるようにマニュアル化したものです。キャンペーンがロータリーの公共イメージ及び認知度の向上に寄与することを目指します。

End Polio Nowキャンペーンを第2610地区として、各クラブの方々に推奨します！

まずはクラブメンバーの方が、ポリオ根絶運動について知ること。そして、それらを地域社会の方々に知らしめましょう！！

アイデアはたくさんあります！

地元でのイベントでブースを出す：地元のお祭りや地域イベントで、ロータリーのブースを確保しましょう。ブースを手伝うボランティアを募り、そこでロータリーや世界ポリオデー関連の資料を配布してもらうとよいでしょう。

スポーツイベントに参加する：地元で行われるマラソン大会、自転車レースなど、スポーツ関連のイベントに参加して、ポリオ根絶への募金を呼びかけましょう。お揃いのTシャツで参加するとより効果的です。

チャリティゴルフ大会を開催する：ポリオ根絶活動を紹介するために、まずは、ロータリアンから。寄付という行動をするきっかけにいただきましょう。その様子をメディアなどに伝えていただき、ロータリアンの行動力とポリオ根絶活動について、広く知っていただくイベントになるとよいですね。

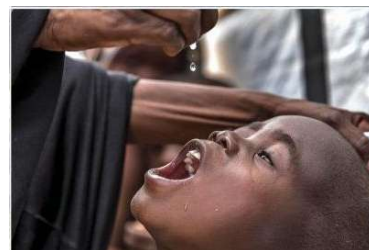


2

End Polio Now ロータリーの取り組み

いまこそポリオ根絶のとき

ポリオ（小児まひ）は、体がまひしたり、命を落とすことさえある病気です。国際ロータリーでは、資金集めをしたり、ワクチン投与をしたり、長年にわたって、ポリオの根絶に取り組んできました。



ポリオ根絶に向けて始動

1979年9月、国際ロータリーは、フィリピンで、生後3か月から36か月の子ども約600万人に対して、5か年計画のポリオ免疫活動を始めました。これがロータリーがポリオ根絶に取り組んだ第一歩です。1985年、国際ロータリーでは、ロータリー創始80周年に当たって、「ポリオ・プラス計画」を発表。日本国内では、募金総額40億円を最終目標として、1986年7月から、5年計画のポリオ・プラスの募金キャンペーンが始まりました。日本中のロータリアンの積極的取り組み、このキャンペーンが展開されていた1986年7月から1991年6月までの5年間で、目標額をはるかに超える約49億円の寄付金を集めることができました。国際ロータリーでは、1989年6月までの3年間でキャンペーン期間としていましたが、この間で2億4700万米ドル（約270億円）を集めました。これは目標額の2倍に相当します。

世界ポリオ根絶推進計画が発足

1988年、国際ロータリーは、世界保健機関（WHO）、ユニセフ、アメリカ疾病対策センター（CDC）とともに、世界ポリオ撲滅推進計画（GPEI）の発足に携わりました。以来、世界でポリオ感染数は99%減少し、毎年35万件あった感染は、2012年にわずか223件にまで減少しました。2013年は、さらにこの数が減少するだろうと期待されています。現在も感染が続いている国は、アフガニスタン、ナイジェリア、パキスタンの3か国です。しかし、国境を超えて人が行き来をする現代、ほかの国にもウイルスが流入して感染が広がる可能性があるため、完全な根絶まで、予断をゆるさない状況です。



ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団からの資金提供

2007年11月26日、国際ロータリーは、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団と協同して、世界ポリオ根絶に必要とされる2億米ドルを投入することを発表しました。ゲイツ財団から2億ドルの補助金を受領したロータリー財団は、この時点から3年間にこれと同額の資金を調達するための募金活動を行っていくことになりました。2009年1月、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団は、国際ロータリーに対して、さらに2億5500万ドルを寄付。国際ロータリーではこれを受けて、2010年までにさらに1億ドル、2007年11月にスタートしたものと合わせて2億ドルの資金を集めることを表明しました。全世界のロータリアン（ロータリークラブ会員）は、「ロータリー2億ドルのチャレンジ」と称し、ポリオ根絶のための資金集めをした結果、その6月を待たずに目標額達成しました。ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団は、この功績に対し、さらに5000万ドルを国際ロータリーに寄付しました。



ポリオという病気は根絶可能

1. ポリオ（急性灰白髄炎）は非常に感染性の高い病気であり、特に感染しやすいのは5歳未満の子ども（約90%ですが、成人でも感染しうります）。
2. 日本では『小児まひ』と呼ばれ1960年には患者5000人、1981年以降は予防接種により感染者はいません。
3. 神経細胞が破壊された場合、重篤な後遺症（骨格の変形、関節の拘縮、運動障害）を生じることあり、呼吸筋の麻痺で死に至ることもあります。
4. 特異的な治療法は無く、ワクチンのみが予防法、他の多くの疾病と異なり「人から人にしか感染しない為、ポリオは根絶可能」なウイルスです。

ポリオに関する事実

((Ⓐ)))

01 ポリオに最も感染しやすいのは5歳未満の子ども	02 治療法はないが、ワクチンで予防が可能	03 野生型ポリオウイルスの常在国はわずか2カ国
04 1988年以来、発症数は99.9%減少	05 ポリオを永久になくさない限り、感染リスクは全世界の子どもに	

★ポリオについて調べてください。

<https://www.endpolio.org/ja/poriotoha>

3

計画しよう

実行のために準備をしましょう。横断幕、のぼりなどを導入し視覚的に効果を上げる必要があります。また、メディアを利用し多くの方々に知っていただくように工夫しましょう。

イベント計画のチェックポイント

項目	ポイント
このイベントのゴール 対象者・目的について	☐ 募金活動ですか？PR活動ですか？啓蒙活動ですか？ ☐ 対象者はロータリアンですか？一般の方ですか？ ☐ 最適な場所を確保しましょう ☐ 目的に合った必要な材料をそろえましょう ・SNS用写真・ポスター・動画・啓蒙用資料など ・マイロータリーの「ブランドリソースセンター」を活用ください https://brandcenter.rotary.org/ja-jp/downloads
アドボカシー（広報活動）について	☐ クラブホームページ、SNSにて告知しましたか？ ☐ 地区、友好クラブ、関連団体などに案内しましたか？ ☐ 各メディアへのプレスリリース（県庁、商工会議所記者ボックス）をしましたか？ ☐ その他の関係者に宣伝資料を配りましたか？
会場設営	☐ 横断幕、のぼり、配布用資料などをそろえる ・ガバナー事務所にある備品を確認ください。事務所に「備品借り受け」を申し込めば借りることが出来ます。 ・その時に余っている配布用資料などがあれば、使用することが出来ます。 ☐ 動画を上映するとより効果的です ☐ 「あと少し」などフोटスポットを作ってはいかがですか？ ☐ イベントの様子を撮影するカメラマンを用意する ☐ メンバー以外にも、ローターアクト、インターアクトなど声をかけてはいかがですか？ ☐ 測定可能なデータを集める仕組みを準備する

4

イベントの成果を伝えよう

イベント実施の最後の仕事は、成果を広く伝えることです。インパクトを残し、今後のイベントの土台を築くことができるよう、次のようなフォローアップを行いましょう。

各種媒体に投稿	□ クラブホームページ、クラブSNS □ 地区ホームページ・ガバナー月信（写真とともに寄稿ください） ・参加者数、寄付金額など測定可能なドキュメントも加えてください □ ロータリーの友 □ 各メディアへのプレスリリース（県庁、商工会議所記者ボックス） □ 協力をおねがいた関係者に宣伝資料を配りましたか？
クラブで共有 協力団体に報告	□ 参加者の感想、アンケートなど。 □ 募金額、参加者数など □ 集合写真のみならず、当日の活動の様子がわかる写真 □ 上記内容を地区、友好クラブ、関連団体などへも伝えてはいかがでしょうか？

ガバナー事務所に保管してある備品

ガバナー事務所に保管してある備品を借りることができます。

他クラブで使用している場合もありますので、適宜 問い合わせください。

ガバナー事務所 TEL076-292-2610 FAX076-292-2613

E-mail: governor@rotary2610.gr.jp

横断幕	1枚	
のぼり 竿、台	新 5枚 旧 4枚 竿・台 5組	
募金箱	1個	
クリアファイル ※なくなり次第終了	75枚	
パンフレット ※なくなり次第終了	各800部	